

ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース



県中農林ニュース

第5号（平成30年2月発行）

編集・発行 福島県県中農林事務所

●トピックス

- ・須賀川4Hクラブで花育イベントを開催しました。
- ・農畜産物の販売力強化セミナーを開催しました。
- ・平成29年度施設野菜における攻めの農業技術革新セミナーを開催しました。
- ・日本なし樹体ジョイント仕立て栽培研修会を開催しました。
- ・「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン（県中地方特産品プレゼント抽選会（第2期応募分））を開催しました。
- ・平成29年度ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新推進セミナー（ぶどう）～「シャインマスカット」長期出荷について考える～を開催しました。
- ・平成29年度ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新推進セミナー（きゅうり）を開催しました。
- ・平成29年度県中地方GAP推進協議会を開催しました。
- ・移動式チッパーの実演会を開催しました。
- ・平成29年度第3回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会（6次化商品成果品発表会）を開催しました。

トピックス

須賀川4Hクラブで花育イベントを開催しました。

【須賀川農業普及所】

須賀川4Hクラブ※では、地元消費者の食と農に関する理解促進のため、農業者ならではの視点を活かした食・花育イベントを開催しています。第1回目は、「須賀川4Hクラブ 食・花育イベント vol.1 『はないく～部屋に花を飾ろう～』」と題し、昨年1月25日（土）に須賀川市内の「水彩カフェ」で開催しました。

石川町の鈴木人世氏からシクラメンの育て方と購入後の管理方法、切り花の長持ちのさせ方を紹介するとともに、花の卸業を営む須賀川市の栗名（くわな）祐一さんを講師にフラワーアレンジメント講座を行いました。参加した親子で盛況となり、クラブ員にとっても消費者との良い交流等の場となりました。

同クラブでは2月18日（日）にシイタケ・ほうれん草をテーマに須賀川市・水彩カフェにおいて、食育イベントを開催しますので、ぜひ参加してみてください。

※4Hクラブ（農業青年クラブ）は、若い農業者により組織され、農業の改良と生活の改善に役立つ腕（Hands）を磨き、科学的に物を考えることのできる頭（Head）の訓練をし、誠実で友情に富む心（heart）を培い、楽しく暮らし、元気で働くための健康（Health）を増進するという、同クラブの4つの信条の頭文字を総称にしたものです。



イベントの様子



講座で作ったフラワーアレンジメント

農畜産物の販売力強化セミナーを開催しました。

【須賀川農業普及所】

農業経営改善支援の一環として優良経営体の育成に向けて、昨年11月28日（火）に玉川村の福島県農業共済組合いわせ石川支所において、消費者ニーズにマッチした販売戦略の構築や第三者認証GAPへの取組推進を目的として、「農畜産物の販売力強化セミナー」を開催しました。

はじめに、郡山販売士会会長の高橋恭子氏から「有利販売のためのブランド戦略」と題して、生産者の独自化を重視して消費者の共感を得ることや情報発信の重要性について講演をいただきました。次に普及所から「GAP（ギャップ）をはじめませんか」と題して、GAP導入のメリット、認証の流れ、支援策等について説明しました。



セミナーの様子



講師：高橋 恭子 氏

平成29年度施設野菜における攻めの農業技術革新セミナーを開催しました。

【須賀川農業普及所】

普及所管内では、先進技術の導入による産地の技術革新のため、平成27年度から「ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新事業」を活用し、UV-Bランプによるうどんこ病発生抑制技術（イチゴ）と環境制御技術（きゅうり、イチゴ）の実証ほを設置し、これらの技術について普及を図っています。

11月30日（木）に須賀川市牡丹会館及び同市内の実証ハウスで、実証技術を普及拡大するため、セミナーを開催しました。はじめに普及所から、これまでの実証成果を説明した後、技術導入生産者等から事例発表をしていただきました。セミナーには若手生産者が多く参加し、事例発表や現地検討会において活発な意見交換が行われました。参加者の中には、次年度に向けて技術の導入を検討している生産者もいました。



事例発表の様子



現地検討会の様子

日本なし樹体ジョイント仕立て栽培研修会を開催しました。

【須賀川農業普及所】

ジョイント仕立ては、早期成園化が図れる革新技术ですが、2年生大苗の育成が技術上の課題です。普及所では、平成28年度に「ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新事業」を活用し、ハウスを利用した育苗と定植後の早期成園化の実証を行っています。

当地域における当該技術の普及拡大のため、昨年12月11日（月）にJA夢みなみきゅうりん館及び須賀川市の実証ほで、研修会を開催しました。初めに普及所から実証ほの取組成果を説明した後、神奈川県農業技術センターの柴田健一郎主任研究員から、「これまでのジョイント仕立ての研究成果と今後の可能性」と題して講演をいただきました。その後、実証ほにおいて、柴田主任研究員と担当農家がジョイント仕立て定植1年目のせん定実演を行いました。参加者からは活発に質問が出され、充実した研修会となりました。



講演の様子



せん定実演の様子

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン（県中地方特産品プレゼント抽選会（第2期応募分））を開催しました。

【企画部】

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンは、県民の皆様に県産農林水産物の美味しさや安全性を再認識していただき、風評払拭、県内消費の拡大、地産地消の促進を目的として実施してまいりました。

当キャンペーンは、「県中地方特産品プレゼント」として、県中地域の「がんばろう ふくしま！」応援店に登録されている常設直売所24店舗における購買者の方を対象に、1,000円1口から応募できるプレゼントキャンペーンを昨年6月から11月まで第1期を展開し、9月1日から11月30日までの第2期応募期間が終了したため、20名の当選者を決める抽選会を開催しました。（応募者数255名、応募口数1,814口）

昨年12月13日（水）、郡山合同庁舎第4会議室において、マスコミ公開のもと桃井県中農林事務所長が厳正な抽選を行いました。

当選者へは、田村市のピーマン味噌、須賀川市産の天のつぶ（新米）、郡山市産の大豆を使用した豆菓子、凍みとうふなどの「県中地方特産品詰め合わせ（3,000円相当）」をお送りしました（当選者の発表は、景品の発送をもって代えさせていただきました）。



抽選会の様子

平成29年度ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新推進セミナー（ぶどう）～「シャインマスカット」長期出荷について考える～を開催しました。

【農業振興普及部】

12月13日(水)にJA福島さくら喜久田総合支店会議室、郡山市熱海町現地ほ場で「ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新推進セミナー」を開催しました。

郡山市熱海町では「ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新事業」を活用し、鮮度庫を導入し、ぶどう「シャインマスカット」の有色袋による収穫期延長技術と冷蔵貯蔵技術を組み合わせた長期出荷の実証を行っています。

当日は、管内のぶどう生産者他30名が参加し、農業振興普及部から、当該事業実証ほの実績について説明し、果樹研究所の桑名主任研究員から「シャインマスカット」の栽培技術等について講義がありました。その後、実証ほ場へ移動し、長期貯蔵の実施状況について視察しました。

実証ほ園主からは、「実証技術により労働時間が3分の2に減り、繁忙期の労力競合が回避できた。」と報告がありました。また、参加者は12月まで果実品質を維持できていることに驚いていました。



セミナーの様子

平成29年度ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新推進セミナー（きゅうり）を開催しました。

【農業振興普及部】

昨年12月14日(木)に「平成29年度ふくしまから はじめよう。攻めの農業技術革新推進セミナー（きゅうり）」を開催しました。これまでの施設栽培では、暖房機による温度管理のみでしたが、他の環境要因を積極的に調節して増収を目指すとする「環境制御技術」を紹介するセミナーです。当日は、農業者をはじめ関係機関など約80名が出席しました。

はじめに、農業振興普及部から、施設内の環境データに基づいて光合成を促進させ、作物の収量及び品質の向上を達成した実証ほの実績について説明を行いました。

また、実証ほの担当農業者の伊藤正喜氏から、「農業を始めて8年目であり栽培技術はベテランの方に及ばないが、収量を伸ばすことが出来た。高齢化などで産地規模が縮小する中で環境制御の技術導入により単収を上げ生産量を維持する手段として有効である。」との感想が述べられました。



環境制御の成果に聞き入る参加者



実証ほの感想を述べる伊藤正喜氏

平成29年度県中地方GAP推進協議会を開催しました。

【農業振興普及部】

昨年12月15日（金）にGAP（農業生産工程管理）の円滑な推進を図るため、郡山合同庁舎第2会議室において、平成29年度県中地方GAP推進協議会を開催しました。

当日は、関係機関・団体（市町村・全農・JA）や市場関係者25名が出席し、現在のGAP導入の進捗状況や今後の推進方策について検討が行われました。JAからは、JGAP推進に力を入れており、今後は団体認証GAP取得に向けて活動したいとの意見がありました。

また、市町村ではGAPの周知と併せ、市町村単独の補助事業創設も検討しているとの説明がありました。



協議会での検討の様子

移動式チップーの実演会を開催しました。

【森林林業部】

木材チップは、製紙用、燃料用、ボード用のほか、近年は放射線量低減のための林内散布にも利用されています。

木材チップの製造機には定置式と移動式があり、移動式は山土場などでも稼働できるため、林地残材等未利用材の有効活用への貢献が期待できます。

そこで、森林資源の有効活用に向けた事業化を検討する際の参考としてもらうため、昨年12月19日（火）にふくしま中央森林組合都路事業所において、森林管理署や市の担当者を始め、林業事業者、木材産業など多くの関係者が参加し、移動式木材破碎機械によるチップ生産のデモンストレーションを行いました。

機械メーカーや所有者の協力をいただきながら研修が進められ、参加者は、生産されるチップの性状や生産コストなどについて、体感的に理解を深めました。



約40名の関係者が参加



移動式チップーによるチップ製造のデモ

平成29年度第3回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会（6次化商品成果品発表会）を開催しました。

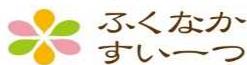
【企画部】

1月31日（水）、郡山合同庁舎第1会議室において、平成29年度第3回県中地方・地域特産品創出クラスター分科会を開催しました。

今年度は、テーマ素材を玉川村特産「さるなし」とし、4事業者の協力を得て開発を進め、今回、9商品を発表することができました。

成果発表会では、4事業者の皆様から、成果品について説明をいただいたのち、参加者で試食を行いました。また、NPO法人「真・食の安全・安心支援機構」の4人の先生方より講評を受け、同機構の橋真美子先生より、今回の取組みにちなみ、「玉川村特産のさるなしを使用したオンリーワン商品のPRについて」と題して講演や具体的な提案をいただき、大変参考となりました。

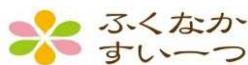
〔成果品の紹介〕



＜お菓子のくわざわ＞（石川町双里）

- 「焼きドーナツ（玉川村産さるなし）」

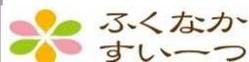
…2月上旬、店舗にて発売開始。



＜株式会社亀饅＞（須賀川市本店、仲の町店）

- 「さるなしゼリー」

…4月、店舗にて、発売開始



＜さるなし研究会＞（玉川村）

- 「さるなしババロア」
- 「さるなしレアチーズケーキ」

…4月以降、直売所での販売開始予定

（写真はさるなしババロア）



(さるなしレアチーズケーキ)

<シャロン株式会社>

- 「さるなしのジャムを使用したサンドウィッチ」
- 「ヨーグルトさるなしソースがけ」
…レストラン シャロン (福島空港店)、
味の駅 沙礫 (石川町塩沢) にて、メニュー
として提供予定 (4月頃)
- 「さるなしとんかつソース」
- 「さるなしポン酢」
- 「さるなしえごましょうゆダレ」
…上記店舗にて、販売中



(左から、とんかつソース、ポン酢、しょうゆダレ) (「サンドウィッチ」と「ヨーグルトさるなしソースがけ」は、会場内で調理していただきました)

※「ふくなかすいーつ」とは、県中地域・福島県の農産物を使用して県中地域で作ったお菓子の名称です。

お問い合わせ先



福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒963-8540 福島県郡山市麓山一丁目1番1号
TEL (024) 935-1510 FAX (024) 935-1314
ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36230a/>
メールアドレス kikaku.af02@pref.fukushima.lg.jp